好きなあかり・嫌いなあかり・誰のためのあかり？

Favorite Lighting, Least Favorite Lighting, Who Is This Lighting For?

1969年生。1993年武蔵野美術大学工芸工業デザイン科卒。現在、岩崎電気㈱LCSにて照明デザインに従事。

石岡 浩美
Hiromi Ishioka

◀キーワード：好き嫌い、個人差、あかり、責任

1. はじめに

照明のデザインという言葉には、照明のプロダクトデザインやあかりによる空間のデザインのほかに、あかりを点灯させるための設計やあかりを活かすための空間づくり、そしてあかりそのものの設計など、いろいろなことが含まれています。

私は主に照明提案の仕事をしていますが、プロダクトも空間も含めた意匠的な内容の依頼であることが多く、提案をする時には、ただ照明器具だけ描くのではなく、周りの景観との調和や、照射する対象物とのバランスなども考えます。

ランプの性能、器具の性能、デザイン性などのハード面だけでなく、そこを利用する人の快適性や環境への影響、地域性などソフトの面も含めてデザインします。

ここでは、今までの仕事を通じてあかりについて考えていることを書こうと思います。

2. 好きなあかり 嫌いなあかり

あなたはどんなあかりが好きですか？ そう聞かれて、すぐに答えられますか？ 「好きな食べ物や好きな色ならばきっとすぐに答えられるのに、あかりについてなんて考えたこともないよ」なんて人、けっこうまわりにいるではありませんか。

近年、照明はめざましく発展して、身の回りにはたくさんあかりがあふれているはずなのに、なぜでしょう。そんなの当たり前すぎて、あまり意識することなんてないからでしょうか。

では具体的に、図1のほのかに灯る蠟燭のあかりは好きですか？ 図2の緑の竹林を清しく照らすあかりは好きですか？ 図3の橋をシンボリックに照らすあかりは好きですか？ きっと好きですね。どのライティングも心地よさの感じ方は違っても、不快にはならないのではと思います。

ところが、私の妹の友人は、今流行っている蠟燭を意識した暖かい色温度の癒しの空間にいと、雰囲気酔って気持ち悪くなってしまうのだそうです。

また、繁華街やアミューズメント施設の賑やかなあかりで、目眩をおこしたり嫌悪感を受けたりする人もいます。みんなが「心地よい」や「楽しい」と思うであろうあかりの空間に、拒絶反応を示してしまう人もいるので

図1 蠟燭のあかりのイメージ

図2 竹林のあかりのイメージ

図3 橋のライトアップのイメージ

(注) 全ての図は口絵356頁にカラーで掲載されています。

す。

もちろん要因はあかりだけではなくて、そこに流れている音楽のジャンルやボリューム、香りや温度や色彩など様々な要因がからんでいることもあるでしょう。または心理的要因でそのあかりがトラウマになってしまっているとか。

ともかく、みんながいいと思っているその環境が、生理的にあわないという人がいるのです。

3. 個人差

ここまで極端ではなくても、人それぞれ、好みの違いなどの個人差はあります。

生活習慣や環境の違い、視力や年齢や遺伝的なことなど身体との関係、その時の目的意識の違いや心理状態の変化などが複雑に関係しています。

たとえば、寝る時電気を消すか消さないか、リビングではなくベッドルームで寛ぐタイプだとか、インテリアのテーマカラーが寒色系なのでそれがきれいに見えたほうが癒されるとか、住んでいた街のローカルカラーがスペインのアンダルシアのように淡い赤茶系だったので、高い色温度のあかりより低い色温度のあかりをきれいで身近に感じるとか、視力が弱いので暗いと怖いとか、建物のライトアップはカッコいいけど、うちの隣でされたらイヤだ、など……。

しかし、照明設計をするために全人類の個人データを作るわけにはいかないので、だいたい、先輩方の礎や自分の経験+最新の実験データや論文などを踏まえて設計をすることになります。

個人の住宅などプライベートな場所であれば、クライアントに趣向や考え方を聞いて、より希望に近い設計ができます。

それでは、道路や公園やホールなど不特定多数の人が利用するパブリックな場所はどうかすれればいいでしょう。

一番大切なことは、「相手の立場になって考える」ことです。だいたいみんなこうだからいっしょでいいだろうという考え方は、相手を思っていないのです。「私はこんなあかりの空間が好き」だけではなく、「私はこんなあかりの空間が好きだけど、あなたはどうですか?」と考えてみることです。

でもその「相手」が違っているのでは? と感じることもあります。

4. 誰のためのあかり?

4.1 こんなこと

以前、老人介護施設の屋外照明の設計と、屋内の照明アドバイザーということで打ち合わせに参加したことがありました。そこは個人病院の経営で、計画はその施設の責任者である院長の奥様が指揮をとっていました。

屋外はライトアップの設計などを行いました。屋内については各社のカタログの中から奥様が選んだものについて、適しているかどうかを進言する程度の内容だったので、屋内設計の経験があまりなかった私でも大丈夫だろうということで参加したのです。

エントランスホール、廊下、食堂と照明器具が決まっていき、居室の照明器具を選んでいる時のことでした。「ダウンライトがいいわねえ、ホテルみたいで」と、奥様が言うので、「それではベッドの真上は避けたほうがいいですね、寝ている時に光源が目に入らないような器具をつけましょう」と、私はいくつか器具を選んで提案しました。すると奥様は「あらやだ、なんかじみねえ。それよりもこのゴールドのいいわ、年寄りには派手なのが好きだし、ゴージャスに見えるでしょ。見学にきた人が満足するものにしたいの」と、反射板がアルミ金色鏡面でミニクリプトン電球のタイプを指しました。「でもこれでは仰向けに寝たときにまぶしいと思いますが」と、言う、「そお? でもね、ここが一番大切な。お金を払って入居したいと感じる部屋でなければだめなのよ。それに看護婦が巡回したときに顔色や表情がちゃんと見えてないと困るでしょ。だから真上についてないでだめなのよ。あなた、もっと勉強してきてちょうだい!」「……はあ」この時は奥様が多忙でタイムアップとなってしまい、次回に持越しになったのですが、そのあとと呼ばれることはありませんでした。

もっと自信をもって言い返せるぐらい勉強しておけばよかったと、今でも後悔しています。

4.2 あんなこと

それはある地方都市の公園内にある、歩行者専用道路の照明柱デザインの依頼で、自然豊かなその場所には、『森』というコンセプトがあり、地区の空間構成とデザインの方針には「自然と人の共存空間として既存樹木の保全と活用を主体とした素朴な施設整備とする」とありました。

私は「この場所の主役はなんだろう。利用者はどんな人たちだろう」と考え、照明柱のデザインは、この場所の自然の空間を活かせるよう自己主張の少ないシンプルなものにして、主に効率的な配光によるあかりの空間デザインを提案しました。

すると担当の営業から電話がかかってきました。「デザインパスを見たのですけど、客先の担当者が好きそうな、もっと『森』らしい凝ったデザインにしてくださいませんか? これじゃあ提出できません」

私はびっくりして、なんで利用者ではなく、客先の担当者や営業担当のためにデザインをしなくちゃいけないわけ? と、悲しくなりました。そしてちょっと怒りました。「まずデザインコンセプトをちゃんと読んでから言ってくださいよ!!」

4.3 そんなこと

私自身、最初からちゃんとそういう意識を持って入社したわけではありません。新入社員のころは自分のデザインを世の中に出すことばかりを考えていました。視野も狭くて、その場所のことなどあまり深く考えずにデザインをしていたのです。例えば図4を街のコミュニティロードに、もちろん不採用です。もし、自分の家の前にこんな自己主張の強いデザインの照明柱を設置されたら、絶対に役所に文句を言いに行くことでしょう。でもテーマパークだったら？ ないこともないですね。

ですから、デザインを決定する人にはとても大きな責任があります。また、決定する人にアドバイスをする人にも責任があります。アドバイスする人にデザイン提案する人にも責任があります。

図4 若気のいたり例

でもその責任は誰に対してなのか、それぞれがちゃんと理解して、意識を持ち続けることが大切だと思うのです。

5. おわりに

私は経験がまだまだ浅く、この広い照明の分野で知らないことのほうがたくさんあります。ですから、なにを書いたらいいのかとても迷いました。はじめは「好きなあかり嫌いなあかり」という題で、あかりの雰囲気についていろいろと体験したことを、これから照明に関わっていこうという人たちへの、プチヒントぐらいになればと思っていました。

そんなとき、この原稿を書いている最中にふっと考えたのです。「私の仕事って誰のため？」

そこで、そのことも含めて書くことにしました。それが「誰のためのあかり？」です。

もちろんこれはあかりだけではなく、すべてのデザインに通じることだと思います。創り出す仕事をしているすべての人の責任についての話です。

こんなことを書くと、「そんなに世の中甘いもんじゃないんだよ」とか「なにを言っとるんだ。当たり前のことを」と思われる方もいらっしゃるでしょう。

ですが、日ごろの忙しさや複雑な立場になるにつれて、忘れかけてしまったり、ついおざなりにしてしまった大切なこと、意外にたくさんあるのではないかなと、最近よく感じたので書いてみました。